



# チェルノブイリからフクシマへ ～ウクライナ原発事故から何を学ぶべきか～

福島第一原発事故から5年、チェルノブイリ原発事故から30年。かつてウクライナで何が起きたのか。また、度重なる惨事にもかかわらず、原発政策が粛々と推進されていくのはなぜか。本企画では、長年チェルノブイリ取材してきたヴラディミール・チェルトコフ監督を向かえ、二つのドキュメンタリー映画を上映すると同時に、放射能汚染の被害を過小評価し、原発政策を推進してきた国際原子力ロビーの問題についてお話を伺う。

## 映画上映と講演

- 17時30分～ 「サクリファイス～リクビダトゥール（原発作業員）の知られざる真実」（25分）
- 18時00分～ 「真実はどこに？～WHOとIAEA 放射能汚染をめぐる」（51分）
- 19時00分～ ヴラディミール・チェルトコフ講演  
\* 使用言語：フランス語、日本語通訳あり

## 講演： ヴラディミール・チェルトコフ 氏

ジャーナリスト、ドキュメンタリー作家。1935年ロシア移民の子としてセルビアで生まれる。イタリア国籍。現在、スイスのルガーノ近郊に在住。80歳。パリに留学後、60年代初頭にイタリアに定住。その後、30年以上、イタリア放送協会（RAI）、そしてスイス・イタリア放送局（TSI）でディレクターを務め、50本以上のドキュメンタリーを制作。邦語文献に『チェルノブイリの犯罪』（緑風出版、上下巻、2015）がある。

日時： 3月25日(金)

17:30-21:00

会場： 志高館 SK110教室

入場無料・申込不要

同志社大学グローバル・スタディーズ研究科

Tel.075-251-3930 / E-mail: ji-gs@mail.doshisha.ac.jp